

母と子のにわ

—利用者みなさまと大阪母子医療センターをつなぐ—



vol.54
2023年 6月

新センター整備について



当センターは、周産期医療の基幹施設として、1981年10月に診療を開始し、1991年には、小児医療部門と研究所が開設されました。周産期部門では、ハイリスクな妊産婦や重症な病気をもった新生児の診療を行いながら、ローリスクの妊産婦も積極的に受け入れ、小児医療部門では、希少・重篤な小児疾患だけでなく、一般的な小児の病気の診療も行っています。また、併設する研究所では、母と子にかかわる病気の原因の解明や、予防、診断、治療法の開発に取り組んでいます。

しかし、開設後、今年で42年目を迎えたこともあり建物が老朽化していることや、入院の患者さんの個室希望などの要望に沿うことができていない状況となっています。

それらの問題を解決するためには、新センターへの建替えが必要不可欠と考え、昨年度（2022年度）に新センター整備についての方針を定めた「基本計画」を作成しました。今年度（2023年度）には、新センターの建物イメージを図面にする「基本設計」という作業を行い、2024～2025年度にかけては、さらに詳細な図面を作成する「実施設計」を行います。その後、2026年度には、工事を開始し、2029年度の完成を予定しています。

新センターの所在地は現在と変わりません。また、建替え工事中・工事後も患者さんには万全な医療体制をご提供しますので、ご安心ください。

なお、新センターでは、診療に必要なスペースの拡充や大規模災害やパンデミック発生時においても、医療機能を維持し、患者さんの生命を守るためのハード・ソフト面の整備を行うことはもちろんのこと、患者さんにより快適に過ごしていただける個室の整備、出産後の母子同室の推進やプライバシー保護に配慮した療養環境向上のための様々な整備も行います。

新センター整備に向け、職員一同、邁進してまいりますので、引き続き、温かいご支援をよろしくお願いいたします。なお、新センター整備等に関し、ご寄附のご協力をいただける場合は、以下のQRコードにアクセスしていただくと、手続きの方法が確認できますので、よろしくお願いいたします。

当センターにご寄附をしていただく場合、従来の現金持参または銀行口座への振り込みに加え、ホームページからオンラインでお申し込みいただけるようになりました。クレジットカード決済により、24時間365日いつでもご寄附いただけます。

患者様へのサービスの向上やセンターの建替え、あるいは特定の診療科のためなど、寄附金の使い道は自由に決定していただけます。みなさまからのご寄附は当センターがより良い病院となるための大きな力となっています。ご協力いただきます様、どうぞよろしくお願いいたします。

（総務・人事グループ）

インターネット寄附システムを導入しました▶

<https://www.wch.opho.jp/center/activities/kifu.html>



（新病院整備グループ）

シリーズ

大阪母子医療センターの
得意な診療

発達障がいの診療



「発達障がい」はその名のとおり「発達」に何らかの不都合がある状態の総称です。いわゆる「発達障がい」であるか判断するためには、まずは子どもの現在の発達やこれまでの発達の道筋を確認するところから診療が始まります。

最初に今までの成長の記録を確認しつつ今の気掛かりを養育者に詳細に尋ねます。子どもにはさまざまな能力がありその全てが大人になるにつれ発達していきませんが、発達する領域は多岐にわたります。そのため、総合的な発達段階を判断するために、質問紙を用いて丹念に時間をかけて確認していきます。また、子どもに関わる様々な環境も発達に大きな影響を与えますので、家族とのかかわりや保育園・幼稚園・学校・課外活動など影響を与える要因となりそうな生活環境もあわせて確認していきます。

そして受診された子どもの行動を直接観察します。診察室での動きかた、言葉の発し方や使い方、大人とのやりとり、表情の変化などをみます。また発達検査などの検査場面では検査に取り組む姿勢、物の操作の方法、心理士とのやり取りなども観察します。

聞き取りと診察場面での行動観察から得られた情報を総合し、子どもの発達がどの段階にあるのか・その発達が一般的な同年代の子どもと比較して同じくらいなのか遅れているのかずれているのかを検討し「発達の状態」を判断します。その時に、例えばコミュニケーションや対人関係に関する領域の発達に偏りがあれば自閉スペクトラム症との診断になりますし、多動・衝動的な言動や注意集中困難さが多数見られれば注意欠如・多動症との診断となります。「発達障がい」と一括りで話題になることが多い疾患群ですが、発達の状態によって他に限局性学習症、発達性協調運動障害、コミュニケーション障害、チックなど、さまざまな疾患名があります。

発達障がいの診療は診断が大きくクローズアップされがちですが、むしろ診断後に子どもの発達特性にあわせたアドバイスがこの診療の大きな特徴といえます。医療機関への受診だけでなく地域の行政機関への相談や福祉機関の利用をおすすめしたり、療育や訓練およびペアレントトレーニングについてのアドバイスを行います。

子どもはみんな違いそれぞれの個性・特徴があり、能力の発達のペースも違います。子どもが育つ環境も違い、年代によってその違いはさまざまです。子どもの発達特徴および成長発達の段階に応じて、一人一人の特徴に合わせた望ましいアドバイスを心がけて診察しています。

(子どものこころの診療科 平山 哲)



産科の初診予約システム — 紹介状のない方が対象 —

患者さんの予約利便性向上を目的として、「ホスピタルマネージャー」という予約システムを導入しています。

これは、患者さんにスマホから予約希望日の申し込みをしていただき、当センターとのやり取りを経て、予約を確定するシステムです。まずは、産科で紹介状をお持ちでない初診の患者さんについて運用を開始しています。電話、Fax 予約に加えて、患者さんの利便性の向上を目指します。

Web 予約は
こちらから▼





セラピードッグの 病院訪問が再開しました！



2023年3月22日、セラピードッグの病院訪問が3年ぶりに再開となりました。コロナ禍の3年間は、ドッグセラピーが継続できるように日本レスキュー協会さんと協議し、2020年12月8日にオンラインでのドッグセラピーが始まりました。当初は慣れない機器操作や通信環境の問題などがありましたが情報企画室の助けもあり、月2回のオンラインドッグセラピーを継続することができました。オンラインならではの、多くの犬に会える、小さな子どもでも怖がらずに楽しめる、清潔隔離中でも対応できるなどの良さも発見できました。また、この間に、子どもたちのアイドルみわちゃん(チワワ)とご家族やスタッフに大人気だった大型犬のにこりちゃん(ゴールデンレトリバー)が引退し、一般家庭にひきとられました。

さて、久しぶりの病院訪問では改めて犬に触れるという醍醐味を子どもたちだけでなく、QSTメンバー・ボランティアも実感し、「やっぱり、わんちゃん、ええなあ」と温かい気持ちになりました。6月からはコロナ禍以前と同様に毎週、セラピードッグが訪問してくれます。

(患者支援センター QOL サポートチーム 川口 めぐみ)



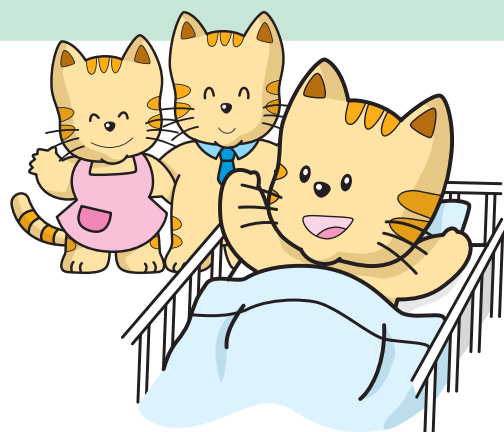
面会についてのお願い

小児棟

- ご両親、祖父母、中学生以上の兄弟
- 12～20時の間 でお願ひします

母性棟

- 夫(パートナー)、患者さん・夫(パートナー)の父母のうち2名まで
- 15～20時の間 ■ 1日1回 30分まで
- 個室または談話室(予約制)での面会 でお願ひします



最新情報は
ホームページを
ご確認ください▶



(2023年6月19日現在)

マイナンバーカードが健康保険証として利用できます！

2023年4月よりマイナ保険証（マイナンバーカード（個人番号が記載された顔写真付きのカード）の保険証利用）の運用が始まりました。2024年秋予定のこれまでの健康保険証の廃止、マイナ保険証への一本化に向けて、当院ではマイナ保険証確認を行う体制を整備し、診療情報を取得・活用することにより、質の高い医療提供に努めています。正確な情報を取得・活用するため、マイナ保険証の利用にご協力をお願いいたします。

「マイナ保険証」利用の主なメリット



- 1 特定健診や薬剤情報の医師との共有（本人の同意が必要）
- 2 マイナポータルでご自身の特定健診や薬剤情報・医療費通知情報の閲覧が可能
- 3 マイナポータルからe-Taxに連携し、確定申告の医療費控除が可能
- 4 高額療養費制度における限度額を超える支払いが免除
- 5 就職・転職・引越しの場合も健康保険証として利用可能（保険者変更の場合には別途手続きが必要）

（医事グループ）



RECIPE

医師・栄養士監修

わかめときゅうりのごま酢あえ

火を使わず
簡単副菜♪



夏の代表野菜「きゅうり」を使った簡単副菜です。ごま油とごまの風味で酸味がマイルドになり、酢の物が苦手な方でも食べやすくなります。うすくち醤油を中華だしにすると中華風酢の物に♪できるだけ火を使いたくない夏場にピッタリな、さっぱり小鉢です。是非ご賞味ください。（栄養管理室）

- 1 下ごしらえ わかめは戻しておく。
きゅうりは輪切りにし塩をふってしばらくおき、しんなりしたら水気を絞る。

Point /

きゅうりは輪切りではなく麺棒や包丁の背で叩き、乱切りにしたのもおいしいです♪

- 2 まぜる 調味料とすりごまを合わせる。
1.を加えて混ぜる。



大阪母子医療センターの食育レシピ
「こどもの心と体の成長・発達による食事Ⅲ 学童期・思春期」
P.66 に掲載されています

材料（2人分）

きゅうり	3/5本（60g）
わかめ（乾）	5g
塩	少々
すりごま	小さじ1と1/3（4g）

▼ 調味料

ごま油	小さじ1/4（1g）
砂糖	小さじ1と1/3（4g）
酢	大匙1弱（14g）
うすくちしょうゆ	小さじ1/3（2g）

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

電話 0725-56-1220

FAX 0725-56-5682

<https://www.wch.opho.jp/>

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・地域と連携して母子保健を充実させます
- ・母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます